



NAGASAKI
MONO-GRAPH

03

株式会社 界工業

カブシキガイシャ サカイコウギョウ

技術が拓く未来への羅針盤

高温から低温へ。温度が異なる流体のエネルギーを効率的に移動させながら加熱や冷却を行う熱交換器。発電プラントや化学プラントに組み込まれるため、温度や圧力といった過酷な条件にも耐えうるタフさと精度が求められる。工業製品の製造に欠かせないこの機器をメインにつくり続けて43年。設計から製作までワンストップで行える技術力がそのまま、取引先との信頼関係につながっている。多様化、複雑化、高度化。時代のニーズに対応しながらも、未来を見据えた新しい事業にも積極的だ。その矛先は環境問題。特にオリンピックの開催で国内外から多くの人が訪れる東京都のごみ処理場の入札工事に照準を合わせる。廃棄物の処理で生まれる熱エネルギーを活用することで、環境に配慮したサステナブルな社会を。その根底にあるのは、「一番になるには人がやらないことをやればいい」という社風。だからこそ、人が得られないものを得られる。オンリーワンかつナンバーワンを目指して。



発電プラント等構造物
製作プロセス改善による
コスト競争力強化

｜ 補助事業のきっかけ ｜

戦力である接合技術を磨き
自社の競争力を高めていきたい

主な取引先は県内外の大手メーカー。大型かつ複雑な製品の加工、接合を得意としているが、年々、製作物がサイズアップしていくため現設備では対応できないことも。さらに高速化、省力化はもちろんのこと、接合技術においては高強度、耐久性が求められ、受注機会を逃すケースも発生しており、精度、コスト、納期などによる競争力の低下に歯止めをかけたい。

｜ 補助事業の内容 ｜

プロセスとプロダクト両方の
イノベーションを図りたい

そこで社内で推奨している「プロセスイノベーション」に基づき、中核をなす技術である接合を主体に投資。大径のものに対応できる特殊ターニングローラーや、切削面の精度を上げるバンドソーボジショナー、タップ加工付きのラジアルボール盤を導入した。それに付随する技術向上も図りながら、多様化、複雑化するニーズに迅速に対応できる環境を整えていく狙いだ。

｜ 補助事業の成果 ｜

新しい機械を導入したことで
従業員のパフォーマンスも向上

導入機器のメーカーから指導を受け、試作を重ねながら技術習得を行った結果、接合、切断、切削の各工程で約30%ものコストダウンに成功。納期の短縮化にも目途が立った。さらに精度が上がったのはもちろん、人為的ミスの抑制や安全性などパフォーマンスも向上。これまで対応困難だった大径ものの受注機会を逃すことがなくなり、売り上げに貢献している。



Information	会社名	株式会社 界工業
	住 所 連絡先	諫早市目代町733-4 ☎0957-23-2936 FAX.0957-23-3041 http://www.sakaikogyo.com ✉meshiro@orange.ocn.ne.jp
□代表取締役 松尾 康平 □設立 1977年5月1日 □資本金 1,060万円 □業種 その他の製造業 □従業員 20名		